

岡山大グループ調査

妊産婦メンタルケア

連携先確保「困難」6割

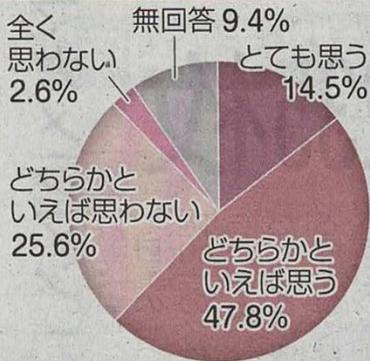
妊娠・出産や育児などによってメンタルヘルスケアが必要になった妊産婦について、県内で精神科や心療内科に携わる医師らの約6割が産科などの連携先を見つけるのが困難と考えていることが、中塚幹也・岡山大学院教授の研究グループの調査で分かった。妊産婦を心身両面で支える診療科間の協力体制の充実が求められている。(二羽俊次)

調査は、診療科の垣根を越えた連携の課題を探る目的で昨年初めて実施。精神科か心療内科がある県内の約140医療機関にアンケートへの協力を依頼。4分の1に当たる32施設の医師、看護師

ら234人から回答を得た。産科などの連携先を見つけるのが困難と感じているのは、「とても思う」14.5%、「どちらかといえば思う」47.8%を合わせた。産科からの患者の受け入れに関し、妊娠・出産の経過に関する

情報が「不十分」「少し不十分」としたのは32.3%。「十分」「まあ十分」の56.9%より20%以上低かった。妊産婦の診療の難しさ(複数回答)については、「妊娠・出産の

連携先を見つけるのは困難である



ズーム

妊産婦の精神疾患、ホルモンバランスの変化や育児によるストレスのほか、望まぬ妊娠、パートナーの支援不足なども発症の要因となる。強い不安感や疲労感、食欲不振などを招く産後うつは1割ほどが経験するとされる。日本精神神経学会と日本産科婦人科学会は昨年、診療の留意点をまとめたガイドを共同で作成した。

妊産婦のメンタルヘルスケアの難しい点(複数回答)



精神科や心療内科 診療科間の情報「不十分」

経過に伴う薬剤の調整の難しさ」を指摘する声が目立った。妊婦は82.0%で最多。産婦も50.6%と、「出産、育児が精神疾患にどう影響するか分かりづらい」「子育てできるか評価しづらい」の62.7%に次いで多かった。他には「妊娠・出産・育児に関する知識の不足」「妊娠中、子育て中の患者を診る経験が不足」などが寄せられた。

一方、医師や助産師、保健師ら多職種による長期的支援は約9割が「必要」としており、連携の重要性は十分認識されていることが裏付けられた。

中塚教授は「産科と精神科のスタッフが合同の研修会を開くなどして緊密に連携する機運を高め、妊産婦を支えていきたい」と話す。